

ヒトキマーゼ遺伝子導入トランスジェニックマウスの開発とその表現形分析及び疾患病態におけるヒトキマーゼの役割分析

うらた ひでのり
浦田 秀則 福岡大学筑紫病院・内科第一 教授

キーワード 高血圧、虚血性心疾患、心不全、レニンアンジオテンシン系

研究概要

ヒト心臓から抽出されたヒトキマーゼに対する特異的阻害薬の開発

研究内容及び今後の展望

ヒト心臓から抽出されたヒトキマーゼmRNAをマウスへ導入した遺伝子導入マウスを開発した。既に発表している如く、いくつかの表現形が確認された（軽症高血圧、心肥大、心機能低下、慢性炎症状態、慢性炎症性サイトカイン増加、乏毛）。このような表現形のうちアンジオテンシンⅡ依存性の表現形と非依存性の表現形を分析中である。このような基礎実験を介してヒトにおけるどのような病態でキマーゼが役割を持つかを探求する。将来は、現在開発中のキマーゼ阻害薬も使用して実験精度を高め、キマーゼの役割分析を施行する。

研究適用分野・用途

研究設備	ヒトキマーゼ遺伝子導入マウス・臨床サンプルのキマーゼ活性測定（アンジオテンシンⅡ産生酵素活性）及び遺伝子発現量の分析
企業に対する 二 一 ズ	<input checked="" type="checkbox"/> 共同・受託研究の相手 <input checked="" type="checkbox"/> 試作に協力する企業 <input checked="" type="checkbox"/> 研究成果の事業化のパートナー <input type="checkbox"/> その他（ ）
特許取得状況等	① 無